

令和4年度 研究功労者表彰受賞者業績

1 表彰者所属・職・氏名

三重県農業研究所 生産技術研究室 野菜園芸研究課・主幹研究員兼課長・北村八祥
(令和4年6月24日時点所属 三重県農林水産部 獣害対策課 獣害対策班 課長補佐兼班長)

2 業績名

種子繁殖型イチゴ品種の育成と栽培技術の確立

3 業績概要

イチゴの育苗作業は、専用施設が必要なうえ作業量も多く、また炭疽病などの病害虫発生リスクも高いため、イチゴ経営の大きな課題とされている。種子繁殖型品種は、従来の栄養繁殖型品種と比較して増殖効率が極めて高い上、種子を経由して伝染する病害虫やウィルスがほとんどないため、優良な種苗を効率よく大量に得ることができる。また、栄養繁殖用の親株を保管する必要がなくなることから、種苗生産の分業化が期待できる。

受賞者らは、2005年から種子繁殖型イチゴ品種の研究を開始し、農林水産省等の研究事業を活用しながら新品種の育成や種子繁殖型品種に適した種苗供給体系と栽培技術の開発を行い、種子繁殖型イチゴの基盤技術の構築と普及に寄与してきた。主な業績は以下のとおりである。

(1) 共同育種による種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」の開発

三重県が代表機関を務めた農林水産省の研究事業により、香川県、千葉県および農研機構との共同育種に取り組み、2014年に種子繁殖型イチゴF1品種「よつぼし」(母系親：三重県育成「三重母本1号」、父系親：香川県育成「A8S4-147」)を開発した。促成栽培に適した我が国初めての種子繁殖型品種であり、品質、収量とも栄養繁殖型品種と遜色のない優れた特性を有している。

(2) 種子繁殖型品種の種苗流通体系と栽培技術の確立

「よつぼし」を対象に他の育成機関や種苗業者と共同で、種子の採種やプラグ苗の生産技術、種子やプラグ苗を利用した栽培技術を開発した。種苗供給体系と栽培技術を整えたことにより、2016年から「よつぼし」の種子やプラグ苗の上市が開始され、その後供給量は年々増加し、2020年には種子換算で年間210万粒にまで拡大した。

(3) 民間企業との連携による種子繁殖型イチゴ品種「MYAGMIE-1」の開発

2020年には種苗業者との共同研究により種子繁殖型品種「MYAGMIE-1」を開発した。

以上、「よつぼし」の開発がきっかけとなり、複数の民間企業や公設試等でも種子繁殖型品種の開発が進められている。

今後、種子繁殖型イチゴ品種の三重県内外への普及が期待されている。

表彰状

北村八祥殿

業績名 種子繁殖型イチゴ品種の育成と
栽培技術の確立

あなたは右の多年にわたる優れた
研究業績により農業技術の振興に
尽くされた功績はきわめて顕著で
あると認め研究功労者としてここに
表彰します

令和四年六月辛四日

全国農業関係試験研究場所長会

会長 金原啓一

